

## 冬と幼児の保健

醫學博士 太田孝之

小兒の冬の衛生といふ問題については日刊新聞の家庭欄や婦人雜誌にもいろいろの人が幾度か記載されてゐて恐らく大抵の御母様達は暗記して居られる此世人の眼に觸れてゐる事柄であつて御要求に應ずる方でもいつも同じ様な事ばかりしか御答へが出来ぬのであります殊に内務省の衛生局の出版になつてゐる「冬と子供」といふ「パンフレット」は瀬川博士が執筆されたのであります非常に懇切丁寧にかゝれてありますから是等を御覽になれば緊要な注意を與へられて大に御參考になると考へますし然し冬になりますとやはり子供殊に幼兒の病氣は少くなりませんから一二冬の病氣について相談いたしませう。

冬は申す迄もない氣溫が低く寒冷でありますのに殊に東京の冬は北風や西北風で強く吹きますので一層氣溫の割に寒く感じますこゝにいふ季節に一番惱ませられるのは何といつても身體機能の充分發達してゐない乳兒や幼兒でありますが幼兒で申せば皮膚に

は凍傷を起します殊に身體の末端になつてゐて血液循環の幾分悪い部分は強い寒さの爲めに凍傷になりその結果血液の鬱停を起し痒くなり或は腫れますし次では潰瘍となります即ち手の指や足の趾耳殻などが最も凍傷に罹り易い部分であることは誰れもよく知つてゐる所でありませぬ滲出性體質や貧血症の小兒は殊に凍傷に罹り易いのであります之を豫防する方法としては寒さを強く皮膚に感じさせぬ工夫より外にありません手足を温かく充分に包む保温を充分に行ふのであります寒い時には手や足を摩擦して置くといふのも一時的には效があります又一旦軽い凍傷にかゝつた時に重くならぬ様「ヨード」丁幾や「カ」ンフル」丁幾を塗布したり其部分を湯で温めるのもよいのであります但是一般に凍傷に罹り易い體質のものには寒冷に抵抗が出来る様に體力を強めておくといふ事も必要でありますが是はそう急に間に合ひませんから平生からその方面の注意が必要となります。

次に寒冷季節には感冒に罹り易いことも誰れも御存じの事でありますが今日では感冒は一の傳染と見做してゐるので家族内で一人誰か風邪に罹れば就中流行性感冒の様な傳染力の強い微菌でありますご忽ちの中に一家中に傳播するといふ事も普通誰れでも知つてゐる事でありますそれ故風邪に罹つてゐる人が幼児に接觸する場合には咳嗽をしたり呼吸を吹きかけたりして顔のそばで話をせぬ様に注意せぬばなりません接吻や頬摺りは勿論嚴禁で場合によれば「マスク」をかける必要もありません感冒といふのは上氣道の「カタル」即ち鼻腔から鼻咽腔や咽頭の「カタル」でありますから、こゝにいふ際には出来るなら強い風の吹く日には外出を禁じ塵埃の多い場所には連れて行かずに早く手當をして癒すことが必要であります、軽い感冒なれば家庭の單簡な手當で充分であります即ち度々吸入と合嗽を行はせること室内をなるべく温かくして小兒も温かに著せおくのであります餘り鼻汁が出たり咳嗽が劇しかったり乃至は熱があつたりすれば多少の醫藥を用ゐねばなりません平生から滲出性の體質であつて皮膚や粘膜が弱つて度々感冒に罹り易い子ではかりその感冒をよい加減に

捨て、おいて慢性にならぬ様に嚴重な注意が必要であります慢性になりますと平生たゞ黄かつた濃い鼻汁が出たり扁桃腺や咽頭が腫れてゐたりして軽い咳嗽が出ます此は一寸した寒い風に當つて又急性の「カタル」を起し高い發熱までする場合がありますかゝる場合には一日も早く慢性の炎症を適切な醫治によつて治療しおかねばなりません感冒が重くなると氣管枝「カタル」や一層すすんで肺炎といふことになりまますし又突然に健康であつた小兒に「クルツプ」性肺炎を起すこともありますが是等については略して申ません

冬の小兒病の中で感冒より一層傳染力の強いのは「デフテリア」で秋から春先へと引つゞいてかゝり易い病氣であります。しかしその數も感冒よりは少ないので、直接の傳染は勿論ですが帶菌者——咽喉に微菌はゐても其人自身は病氣になつてゐない人又癒れば微菌がゐなくなるはづであるのに病は癒つてもまだ微菌丈が咽喉に残つてゐる人——かういふ帶菌者に接すると云ふ事が傳染の機會でありますから患者が一人出來たら他の健康な子から嚴重に隔離する事が最も肝要であります。

百日咳も秋から春先へかけて殊に多い子供の病氣であります。百日咳の微菌が初めて侵す場所は咽喉で荒い空気を吸ふて咽喉のたゞれ易い冬の季節に多く感染し易いのであります。

「デフテリア」は手當を早くすればぢきに癒るものですがこの方は治療が稍困難で長くかゝる處から氣管枝「カタル」肺炎などの合併症を起し易く殊に結核に對する抵抗力が弱くなります爲に結核性の病氣を起す事が多くあります。又百日咳も體力が弱くなり榮養が悪くなり瘦せますから出来る丈早く治療する事が肝要であります。この病氣は初期が最も傳染し易い時期でありますから完全になほるまでは學校とか幼稚園とかいふ團體の中へは出さないのが徳義上大切だと思ひます。

## ○幼稚園當來の問題

「教育時論」新年號で當來の教育問題といふ題で諸家の意見を集めた幼稚園に關するものを抜き出して見る。(記者)

○ 私立帝國小學校長 西山 哲 治氏

何年前には幼稚園の有害無益論などが出たものであるが、今日では大都市には必ず二三十の幼稚園あり、町村にも一、二の設立を

見るといふやうになつた。これは幼稚園の必要を事實の上に證明されたものと見られやう。數多く設立され、益々その實際的保育について深い研究を希望する次第である。

○ 東洋幼稚園長 岸邊 福 雄氏

日本に於ては幼稚園は民間に於ても輕視され、當局に於ては尙更ら念頭になく、學者も亦幼童研究を眞面目にして居る人は少なく、五十年の昔とその差幾干もありますまい。幼稚園保育を受けた人が文部大臣になる日が來ましたら自新らしい活動もありませうけれども、幼稚園教育の本場は獨逸であります。熱を以て活躍して居りますのは米國でせうか。米國には四種の幼稚園があります、中流以上の幼兒のもの、下層のもの即托兒所と、近年シカゴを中央として起つて居る親母に育児法の理論と實際と教授しますのと、それからセントルイス中心に行はれて居ます小學教育を六歳以下より開始しやうとして設立して居るものとあります。幼稚園教育が分らぬ小學教育は兒童が苦しめられて居ます。

○ 東京女子高等師範學校 附屬幼稚園主事 倉 橋 惣三氏

一、幼稚園保姆の資格を高めること、現行令では小學校準教員を以て保姆の資格としてある。これは當然、小學校正教員の資格にあつたためらなければならぬ。之がためには正保姆準保姆の別をたてるのもいゝが、理想は勿論みんな正保姆にすることである。

一、幼稚園保姆待遇をあらためること、幼稚園保姆の待遇は小學校教員に準ずることになつてゐるが、年功加俸其他同等に扱はれてゐない。此の差別は全然撤排すべきである。

一、幼稚園保姆養成機關を完成すること。